ポラリス

札幌社会保険総合病院　院外広報誌

第13号
2009年7月

●医療安全推進研修会にちなんで
●医療の現場から①②
●看護の日バザーの収益金を寄付
●第４回日本禁煙学術総会のお知らせ
●こんにちは、医療連携室です　No.10
●看護の日

ポラリスの由来

ポラリスは北極星を意味します。当院の前身である北辰病院の北辰もまた、ポラリスと同じ北極星を意味する言葉なのです。北極星のように、北国の中心で悠久に燦然と輝き続けたいという願いが込められているのです。
題字は秦院長の直筆です。

URL　http://www. zensharen. or. jp/sapb

医療安全推進研修会にちなんで
「平成20年度のインシデントの集計と分析 ー セーフマスター導入後の成果 ー」

安全管理部　高 橋 秀 史

毎年、５月と11月に行っている医療安全研修であるが、これは厚生労働省から病院に課せられた安全管理対策の一環として実施している。

安全管理部では、アンケート調査、研修会やワークショップの企画、インシデント・アクシデントの調査と対策などなど、毎週部会を開催し、日々院内の安全を願って活動している。

今回は、国内外の最近の医療事故・医事紛争の状況から当院でのインシデントなどの発生状況などについて報告した。

当院での大きな変化は、数年前から念願であったインシデント報告システム（セーフマスター）が、ようやく昨年12月から稼動したことだろう。自分のＩＤで必要な情報がすでに織り込み済みで、チェックボックス式の簡便な入力が中心であり、以前よりも３～４割ほど報告数が増えた印象がある。いかに潜在していたインシデントが多かったかということも実感している。

さらに、安全管理部員にとっても、資料作りが不要となり、毎回の部会でのインシデント報告の共有と調査、討論が格段に効率化し、さらに双方向性がよいために疑問点や意見もインシデント報告の中で明らかにすることができるようになった。

さらにこれらのインシデント報告は運営会議だけでなく、全ての職員に報告されるので、院内でどのようなインシデントが起きているか、どのような場面で注意が必要か、どんな対策が可能かといった情報も共有しやすくなった。その他にもアンケート調査やｅ-ラーニングによる自己啓発も可能となっている。

当院の職員は積極的にインシデント報告にアクセスして、これらの情報を共有でき、今よりも少しでも安全な医療を推進し、「信頼される病院」作りに協力をしている。

医療の現場から①

アデノウイルス結膜炎

眼科 医長　有 賀 俊 英

雪も溶け北海道にも遅い春が到来した感じです。これから夏に向けて北海道は最も良い時期を迎えますが、これから増えてくる眼科の病気の代表がこの「アデノウイルス結膜炎」です。あまりなじみのない名称かもしれませんが、一般の方には“はやりめ”、医療関係者であれば“流行性角結膜炎”、“咽頭結膜熱”といった名称が一般的でしょうか。

充血があり、めやにや涙が出る、異物感が強い……といった症状がおきますが最も重要なのがヒトからヒトにうつるということです。行動制限が不可能である乳幼児に発症すると最終的には一家全滅といったパターンをよく経験するのもこの結膜炎です。

原因はその名の通りヒトアデノウイルスというウイルスによって引き起こされるものですが、アデノウイルスにはいくつもの種類がありそのうちいくつかが結膜炎の原因になります。それ以外にもヒトに様々な疾患をきたすことが知られており、代表的なのがこの結膜炎のほか、上気道炎、出血性膀胱炎、乳児下痢症があり、重篤なものでは肺炎などの原因となることもあります。

現在は53種の血清型が同定されており、ウイルスの変異によってその数も増加してきています（折しもこの原稿を書いているときに新型インフルエンザの警戒水準がフェーズ5に引き上げられ拡大の一途をたどっておりますが……）。まだ数種類しか知られてなかった頃は流行性角結膜炎＝8型、咽頭結膜熱＝3型とされていましたが、その後次々と同定された他の種類の血清型でも全く区別がつかない結膜炎が起きることがわかり、現在はアデノウイルスによって引き起こされる結膜炎を総称してアデノウイルス結膜炎というようになっています。

すでにお話ししたとおり、非常に感染力が強いことが特徴で、容易に家族内、職場内、学校・保育園・幼稚園などで集団感染が起き、もちろん院内感染も珍しいことではありません。また潜伏期が1週間から2週間程度と比較的長いことも感染拡大に気づきにくく、収束しにくい要因になっています。結膜炎に関しては基本的に接触感染でうつりますので、こまめに手を洗う、家族で共用するものは別にするといった注意が必要になりますし、もちろん仕事や学校などは治るまで休むといったことが必要となります。

ひとたび拡大すると収束するまでは時間がかかり、その間職場などでは業務全体に支障が生じ、大きな損害も発生しますので、急な充血、めやになどが起きたときにはなるべく早く眼科医の診察を受けて下さい。

医療の現場から②

小児の病気 ～川崎病について～

小児科 部長　日 下 卓 右

川崎病は世界中でみられる小児の病気ですが、日本は世界で最も多くみられています。1970年から川崎病全国調査が行われており、100床以上の入院施設のある全医療機関、100床未満でも小児科専門の医療機関全てを対象としており、殆どの川崎病症例が把握されています。これによれば2005年は10041人、2006年は10436人と小児人口が減少するなかで毎年1万人を超える患者さんが発生しています。先日、2007年と2008年の全国調査票が回収されたので間もなくその結果が公表されるでしょう。

当院では2007年には33名、2008年は26名の新規患者（外来のみの患者を少数含みます）がありました。

川崎病は発熱、眼球結膜の充血、口唇の発赤や苺舌、頸部リンパ節腫脹、不定形紅斑、四肢末端の変化（硬性浮腫や発赤、回復期の膜様落屑）の６つの主症状のうち５つを認めると診断されますが、４つ以下でも川崎病と考えられる症例があり不全型と呼ばれます。

川崎病は高サイトカイン血症を伴う、全身の主に中型筋型動脈の急性血管炎と言えますがその原因は未だに不明です。

治療はアスピリンの内服とガンマグロブリンの点滴静注が重要です。最近はガンマグロブリンを2g／kg（体重）×１日で投与する超大量短期投与が行われることが多くなり治療成績も改善していますが、それでも5例に1例は初回投与で解熱には至りません。これは不応例といってガンマグロブリンの追加投与などが行われます。川崎病では血管炎の結果、冠動脈などに動脈瘤が形成されることがあります。ガンマグロブリン療法の普及以降、その数は減っていますが、不応例の一部では最終的に冠動脈瘤が残ってしまいます。最近の全国調査では1.35%の頻度です。当科ではこの２年間で２例を経験しました。1例は2病日に紹介入院になりましたがガンマグロブリンを２回追加しても瘤が残ってしまいました。もう1例は他院で治療されガンマグロブリンを使わずに解熱しましたが15病日に当科を初診された時点で瘤が出来ていました。

未だに不明の原因の究明とならんで、ガンマグロブリン不応例をいかに後遺症なく治癒に導くかが現在の大きな課題です。

当科では急性期の入院治療、回復期以降の定期検診を専門外来で毎週行っています。宜しくお願い申し上げます。

看護の日バザーの収益金を寄付

職員の皆さまのご協力により看護の日バザーの収益金は30, 384円となりました。
５月27日北海道盲導犬協会へ寄付させて頂きました。ありがとうございました。

看護の日バザー担当科長　嶋宮　美野子

第４回
日本禁煙学会学術総会のお知らせ

2009年９月12日(土)・13日(日)の２日間、第４回日本禁煙学会学術総会がシェラトンホテル札幌にて開催されます。大会長は当院の秦院長、当院が事務局となっています。この学会は、医療・保健の専門家だけでなく、より広く国民を含めたタバコ産業とつながりのない非政府組織、その他民間団体とその会員が、国内および国際的なタバコ規制活動へ貢献、参加し、教育、行政や一般職場などで、禁煙推進や禁煙環境整備に携わるすべての人々が協力し合うことが必要と考え個人や団体とともに研鑽するために設立された学会です。広く一般市民を対象に「市民公開フォーラム」も開催する予定です。このフォーラムを通じ、社会全体としての健康保持に寄与したいと考えております。

と、外部への文書はこのようになっていますが、簡単にするとこうなります。

今年９月12日(土)・13日(日)の２日間シェラトンホテル札幌を全館禁煙にして、禁煙学会を行います。医療関係者だけの学会ではなく、例えば12日のシンポジウムには神奈川県知事や北海道知事も来てくださる予定です。

また、13日の市民公開フォーラムには、すっかりおなじみの元日本ハムファイターズヘッドコーチの白井一幸氏の基調講演もあります。もちろん札幌医科大学第２内科教授・島本和明教授の市民公開フォーラムでの講演や、12日には元ヘビースモーカーの秦院長の会長講演といった医療の面からの講演もあります。

堅苦しく考えずに、職場からも近くいろいろな職業の方の様々な視点からのお話が聞ける機会ですので、一人でも多くの方にご参加いただければ、事務局として嬉しいかぎりです。事務局としても、一生懸命準備を進めているところです。

学会へのご参加とあわせてご協力、よろしくお願いします。

こんにちは、医療連携室です　No.10

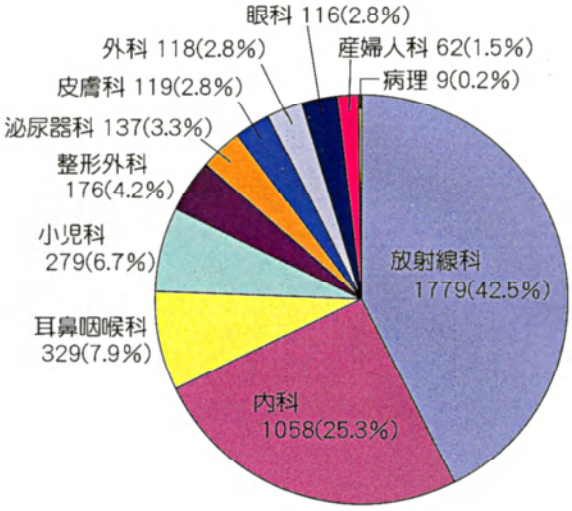
涼風の恋しい今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、今回は平成20年度の「医療連携室」利用状況について、一部ですがご報告させていただきます。

平成20年度は4,182名の患者様が「医療連携室」を通じ受診や検査で来院されました。多くのご依頼を頂き心よりお礼申し上げます。

《診療科別》

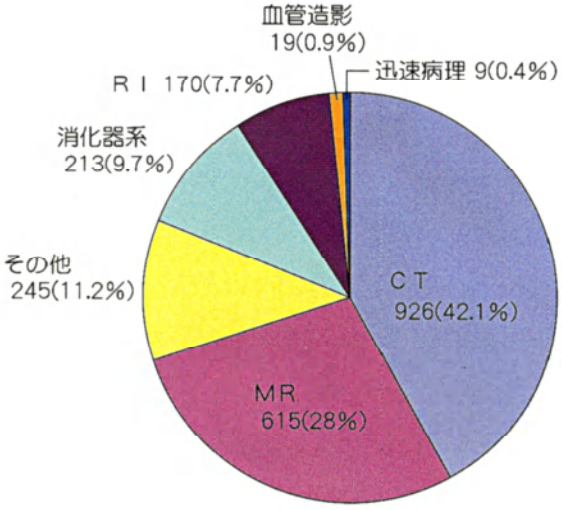
放射線科が診療予約全体の42.5%を占め、次いで内科が25.3%、耳鼻咽喉科が7.9%を占めています。



《検査項目別》

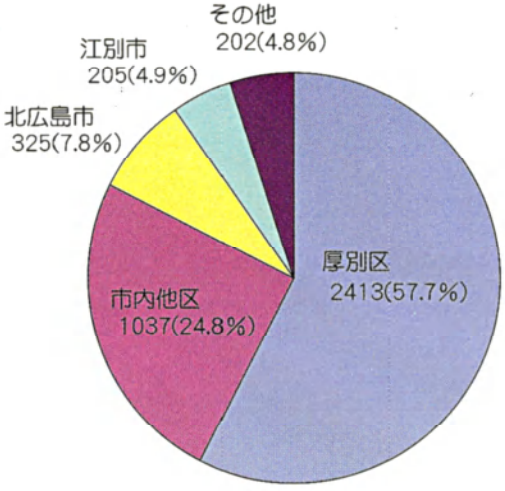
検査目的での利用は2,086名です。

(同一人物の複数検査があるため総検査数は2,197件)



《地域別医療機関利用状況》

年間で288件の医療機関から利用がありました。そのうち厚別区の医療機関が2,413件（57.7%）を占めています。



＊ 行事予定 ＊

糖尿病教室（全２回実施）

平成21年７月16日・７月21日　11時～

当院２階講義室（事前申し込みが必要です）

看　護　の　日

外来　南雲　ひとみ

毎年５月12日は「看護の日」。

メインテーマは「看護の心をみんなの心に」。

看護の心、ケアの心、助け合いの心を、老若男女を問わずだれもが育むきっかけとなるよう当院でもイベントが行われました。

職員の皆様よりご協力いただきましたバザー、高校生10名によるふれあい看護体験、全国的に活躍をされている江別出身のシンガーソングライター桜庭和さんを招いてのライブ、どれも盛況に行うことができました。

特にふれあい看護体験を終えた高校生の作文発表では、改めて、看護学校へ入学し看護の道へ抱いた志を思い返すことができました。

また、桜庭和さんのライブでは、その澄みわたる、透き通るような歌声に心が洗われました。

「看護の日」は、21世紀の高齢社会を支えていくため、看護の心、助け合いの心、広く国民が分かち合うことをだれでも認識するきっかけとなるよう制定されましたが、私自身、係りをさせていただきそのことをより強く考えることができました。

今回の経験を活かせるよう、今後の仕事について努力していこうと思います。

ふれあい看護体験を終えて

北広島高校　工　藤　ちとせ

今日、１日看護体験をさせていただいて、自分が思っている以上に看護師は大変な仕事なのだと改めて感じました。ですが、部屋を廻っていった時の患者さんの笑顔やなごやかな雰囲気を見て、大変さ以上にやりがいを感じることができるのだと思いました。

今日は１日のほとんどをＮＩＣＵの中で過ごさせていただきました。私は将来、ＮＩＣＵの中で働きたいと思っていたので、とてもうれしく思いました。実際に、赤ちゃんにミルクをあげたり、心臓や呼吸の音を聞いたり、本当に緊張しましたが、赤ちゃんと目が合ったり、声を聞いたり、見ているだけでとても楽しむことができました。ＮＩＣＵの他にも手術後の患者さんを見たり、これから手術に向かう

患者さんを送りに行ったりしました。その時に印象的だったのが、看護師さん達の温かい声かけでした。患者さんの要望にすぐに対応するのはもちろん、患者さんが求めていることを先に看護師さんが気付き、声をかけているのを見て、常に人を思いやる心を自然に持つということが大切なのだと思いました。

細かい心配り、自然な笑顔、接していることで元気がもらえる、普段生活しているだけでは深く学べないことを、今日の体験では多く学ぶことができたと思っています。前より一層、看護師になりたいという気持ちが強くなりました。この貴重な体験を今後の進路だけではなく、普段生活している中で、活かしていきたいと思いました。

看護師という仕事、それは患者さんにしてあげるだけではなく、自分が患者さんから笑顔や勇気、元気などをもらうそのことに気付くことができて、本当にいい体験をさせていただいたと思いました。

ふれあい看護体験を終えて

札幌白陵高校　梅　野　美　紅

私は、小さいころから病弱で病院に通うことが多く、入院も何度もしていました。

そのことがあり、看護師の仕事を見る機会が多く『私も将来人の役に立つ仕事をしてみたい。一人でも多くの人を助けてあげたい』その思いから看護師になりたいと考えるようになりました。

そして今日のふれあい看護体験に参加することを決めました。

体験する前は、迷惑をかけてしまうんじゃないかと心配で緊張していました。

そして実際に体験が始まり、一人で担当の看護師さんについて行ったときは、わからないことがたくさんあり説明を聞いているだけで精一杯でした。

そして今日の看護体験を終えて、患者さんへの気くばりや優しさなどが一番大切なことだと思いとても大変な仕事だけどやりがいのあるものだと感じ、看護の仕事をするためにさらに頑張って行きたいと思いました。

今日は、忙しい中、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

編集後記

今年もはや半年が過ぎてしまいました。前半の話題の中心はやはり新型インフルエンザでしょう。札幌でも何人かの患者が見つかっていますが、この先どのように推移していくのか、目が離せない状況が続いています。

同じく米国から端を発した経済の不況も中々好転せず、先行きに暗い影を落としています。この２つの出来事は「米国がくしゃみをすると日本が風邪引く」そのものですね。

８月には総選挙がありそうです？後半の半年は良い話題で埋め尽くされるといいですね。（相川記）

編集委員　相川・小林・有賀・嶋宮・中野渡・新谷・佐藤・細谷・土田・北村

発行責任者：秦 温信
発行：〒004-8618 札幌市厚別区厚別中央2条6丁目2番1号　札幌社会保険総合病院